



論点整理

第四章 情報活用能力の抜本的向上と 質の高い探究的な学びの実現 ④

質の高い探究的な学びの実現 ②

3 小中高を通じて

- ◆ 約30年にわたる総合の実践の蓄積等を踏まえ、「問い」や「課題」の設定の質をはじめとする探究のプロセスの改善を含め、学校種ごとの総合の「目標」等について、発達段階を踏まえた示し方を検討すべき。その際、新たな枠組みの全体像も踏まえ、小・中学校での総合の名称について検討すべき
- ◆ 探究的な学びを適切に機能させるためには、基礎的・基本的な内容の習得も重要であるとともに、各教科も含めた質の高い探究のプロセスが基礎的・基本的な内容の習得の必要性を感じさせ、両者が往還して高まっていく等の関係について分かりやすく示すべき
- ◆ 探究的な学びにおいて、児童生徒任せになっている実践も見られることから、気付きや試行錯誤を促す適切な問いかけなど教師が適切に指導性を発揮し、基礎的・基本的な内容を踏まえつつ、探究的な学びの質を高める授業改善を進めるとともに、論述・レポート・作品製作等の「学びの主体的な調整」が求められる評価課題を重視することも必要になる。
- ◆ グループでの探究と個人探究とのバランスや興味関心等を踏まえた多様なテーマ設定の在り方について、発達段階や情報活用能力の向上も勘案し、示し方を検討すべき



人を観る目を養う

ひと おのれ し うれ ひと し うれ
人の己を知らざるを患えず。人を知らざるを患う。

(訳) 人が自分の実力を理解してくれてなくても嘆くことはない。
他人の実力を自分が見極められないことが心配だ。

出典：「壁を乗り越える論語塾」安岡定子著（PHP研究所）